

業による農業再編成が齎らず農業人口の著減（甚しき場合は農家半減）に對し人口政策的見地より少くとも現在の農業人口數を堅持存続すべきことが要望さるゝ一方、他方には零細農家の人口資源としての價値を認めず其の農業生産力も亦乏しきを指摘して、農業再編成の急務が力説された。また適正農家は理想論にして専ら靜態人口を基礎として立論せられ人口増勢を考慮するときは實現性なしとする者ある一方、他方には過剩農業人口を滿洲國へ移住せしむるも其の人口資源として意義亦重大なりとの主張が開陳された。

更に日本内地に於ける轉業問題と農業とについては現在小賣商人の三分の一は漸次轉業を餘儀なくせらるる立場にあり、國民は彼等を國策意識の誇りを以て轉業せしむるやう努力すべきことが力説せられた。特に明治維新に於ける四十萬戸二百萬人の土族授産事業と北海道墾田事業とが想起せられ、今や彼等を滿洲國に開拓農民として歸農せしむべきこと昭和維新の緊要事なる所以が強調された。とりわけ甲府に於ける米穀商代表の滿洲視察とその結果に關する實例はこの問題に明るい光を投ずること尠くなかつた。

また滿洲移民の問題については滿洲開拓農民が出生率高く乳兒死亡率低きことを指摘し人口資源として重要なことが報告せられたが、之に對し出生率の比較は人口の年齢構成の相違を考慮せざれば正確を得難しとの専門的注意も見た。特に滿洲への移民問題については大和民族の血族的潔癖性を力説して他民族との混血を好ましからずとし、少數人口を以て多數を指導するには單に精神的のみならず物質的にも充分卓越せ

る條件を伴ふべきことが主張せられた。また本國との文化的及び血液的交流を喪ふときは海外移住民は日本移民として退化を餘儀なくせらるる、等の事實も忠告せられ今後の滿洲開拓に際し深く研鑽せらるべき重大事項たるを思はしめた。

最後に最近其の設定要綱の決定を見た國土計畫については農業人口問題が充分考慮され居ることが判明せられ、又國土計畫は單なる土木計畫または産業計畫にあらず寧ろ人口政策が極めて重要な地位を占むべきことも力説された。

その他機業工場の多い北陸地方に農村結核死亡率の極めて高い事實も報告せられ民族衛生學的見地より新國土計畫に於ける産業配分計畫に關し特に考慮されたき旨要望せらるゝ等種々傾聴に値する論議が發表討論せられた。

尙、本研究より出席せる北岡企畫部長は我が國將來人口の推定その他種々の統計資料により將來總人口の増勢、現在に於ける農業及び商業人口の過剩を指摘し乍ら他方工業の發達はその生産増に比例せる人口收容力を伴はざる事實を挙げ、我が國將來の人口收容力の問題について傾聴すべき所見の開陳あり、特に國民經濟及び國防上農業の重要性を力説、農業人口を少くとも現在以下に減少すべからざる所以を強調され内地農業過剩人口處理の問題に就いて一重要問題を提供、また小山研究官は大和民族の混血を非とし海外移民の精神的・物質的條件の強化を主張する等滿洲移民問題について今後慎重検討せらるべき問題を提示するところあつた。

財團法人日本學術振興會第一特別 （民族科學）委員會研究報告會の開催

昭和一四年一〇月二五日、時局下の切迫せる要求に應じ、人的資源問題を研究し、行政の實際に資せんとする目的を以て、財團法人日本學術振興會内に第一特別（民族科學）委員會の設置せられたることは既報（本誌第一卷第一號八五頁参照）の如くであるが、同委員會開設後日猶淺きに拘らず、報告材料の見る可きもの多々あるに鑑み、關係各方面の學者の前に之を公開し、十分の批判検討を受くる必要あるのみならず多數行政部門の實際家の參考に資する爲、昭和一五年一〇月一九日、東京市丸之内工業俱樂部に於て、第一回報告會を公開を以て開催した。同報告會次第は左の如くであるが、時局下頗る緊要なる問題であり、且つ此の種報告會は日本學術振興會最初の試みであつて頗る關係方面の視聽を集め、來會者關係各方面の權威一五〇名の多きに達し、多大の收穫を修めた。

日本學術振興會 研究報告會次第
民族科學委員會

一、開會之辭 委員長 林 春 雄

一、體力部關係 體力部關係 委員長 林 春 雄

一、體力法による運動機能検査方法（荷重速行）の批判 公衆衛生院 安田 守 夫（研究員）
體育研究所 厚 生 會 古 屋 芳 雄（委員）
體育研究所 吉 田 章 信（研究員）

一、體力法準備調査成績の概要

厚生省 重田 定正(同)
同 石垣 純二(同)

一、體力法準備調査によつて發見せられたる一資料

厚生省 古屋 芳雄(委員)
公衆衛生院 熊澤 清志

一、最近の壯丁検査成績の概要

陸軍省 鎌田 調(委員)

一、陸軍壯丁合格種別と體力法による運動機能検査成績の適合性に就て

厚生省 古屋 芳雄(同)
同 二村 良臣

一、體育鍛練の效果に就て

厚生省 野津 謙(研究員)

一、疫痢及腸炎の細菌學的所見

傳染病 研究所 小島 三郎(委員)

一、赤痢、腸炎の細菌免疫並に臨床的研究

東京市 豊島病院長 内田三千太郎(研究員)

一、疫痢及腸炎の疫學的所見

公衆衛生院 野邊地慶三(委員)

一、赤痢對策に關して

厚生省 南崎 雄七(同)

一、時局下の乳幼児保健對策

同 館林 宣夫(研究員)

公衆衛生院 齋 藤 潔(委員)

民族毒及人口問題部

一、國土計畫と人的資源

厚生省 古屋 芳雄(委員)

業 報

公衆衛生院 森田 外史
同 根津 美基
大阪府技師 吉田 六郎

一、人口問題に關する新しき數字

人口問題研究所 中川 友長(委員)

一、重工業と人的資源

企業院 美濃口時次郎(同)

一、輓近工場地帯の性病蔓延状況について

厚生省 大橋 政雄(研究員)

福岡縣 衛生課 内野 總一(同)

群馬縣 衛生課 杉野 爲次(同)

一、昭和十三年度の資料による内地及朝鮮人口の眞の増加率について

京城帝大 水島 治夫(委員)

一、在鮮四十年の内地人増殖力について

厚生省 古屋 芳雄(委員)

一、國土計畫への關聯に於て見たる都市人口の増殖力に就いて

人口問題研究所 館 稔(研究員)

同 上田 正夫

同 窪田 嘉彰

参考 發表

一、伊太利の結核保險制度に就て

大阪帝大 今村 荒男(委員)

一、結核保險の必要性に就て

厚生省 佐藤 正(委員)

一、賃金問題の生物學的基礎に就て

厚生省 大西 清次(委員)

一、酒害に就て

小鹽 完次(研究員)

一、閉會之辭

日本學術振興會 理事 波多野貞夫

帝國農會の農業及農家の安定發展方策その他に關する農林大臣への答申

並附帶建議

帝國農會に於ては農林大臣の諮問に對し昭和十五年十月二十二—二十五日第三十二回總會を開き之を討議したが、その答申並に之に附帶する建議を掲ぐれば以下の如くである。

農林大臣諮問第一號

時局に即應し農業及農家の安定發展上採るべき方策如何

答 申

國防國家體制下に於ける高度農業生産計畫の完遂は人的資源及物的資源就中農地の合理的配置を基礎とせざるべからず。即ち農地の擴張改良並に農地制度の適正化を圖ると共に分村計畫等農村人口の定住並移動計畫を樹立實行し、此等計畫の進度に應じ適正規模農家の維持創設に努め、健全なる農家を構成の基礎とせる農村の再編成を斷行すること極めて緊要なり。依て時局に即應し農業及農家の安定發展を期する爲には左記を根幹とせる綜合的施策を確立するを適當なりと認む。

記

一、農村計畫の確立

(一)地方別地帯別に適正規模農家の維持創設に努め之を農村構成の中心たらしむる様計畫を樹立する